

令和6年度 鷺敷小学校 学校教育に関する評価アンケート（考察）

学校教育目標

自ら学びを楽しみ、ともに生きる力を磨き合う心身ともにたくましい児童の育成

保護者から見たお子様の様子については、全体的に見ると、肯定的な意見が80%を下回っている項目が多い。90%以上の児童が学校へ行くのを楽しみにしているが、授業や家庭での学習に自ら課題意識をもって主体的に取り組んだり、友達とのかかわりの中で感じる間違っただけの考えや行動に、自ら注意や対処ができていない児童が30%以上いる。各学級の児童数が減少し、教師からの支援が多すぎる傾向があるため、児童は受け身・指示を待つようになり、主体的に学習・行動ができていないのではないかと考えられる。自ら判断・行動し、間違いや失敗をする中では大きな学びがあり、実践力につながる。そのことを教職員で共通理解し、児童の自主性・主体性を大切にした学習・生活指導・支援ができるよう取り組んでいきたい。

また、昨年度に続いてであるが、本や新聞をあまり読んでいない児童が半数近くいる。昨年度の学校評価アンケートの結果を受け、本年度は、全校一斉の朝の読書タイムや図書委員児童による各学級への朝の読み聞かせ・業間休みの紙芝居の実施、教職員への読書啓発研修（ビブリオバトル）等を行ったが、数値としてあまり大きな成果が出ていない。子供の様子を見てみると、毎月来てくださるお話し玉手箱の読み聞かせの時間には、耳を傾けて熱心に聞き、読書タイムの時間には、読書に集中して静かに読んでいる児童が多い。しかし、学校での休み時間の過ごし方を振り返ってみると、係や委員会活動・宿題の直しや外遊び等で、また家庭では、宿題や習い事、テレビ視聴（YouTube視聴）やインターネット、趣味の時間等で、読書の時間が確保できていないのではないかと考えられる。情報化社会となり、SNSやインターネットの普及で子供・大人共に読書に親しむ時間が少なくなっている傾向にあると考えられるが、読書には、知識の獲得や読解力の向上、論理的な思考力や集中力の向上等、今後の生活に必要な力を養えるよさがある。自ら読書に親しむ態度の育成を図るために、学校では、読書の時間と場を確保し、国語の学習と関連させた読書活動の推進や読書に親しみやすい環境を整えること、毎週火曜日に朝日新聞から児童一人一人に届けていただいている、子供新聞を活用していくことが考えられる。

学校運営全般については、全体的に肯定的な意見が80%以上の回答となっている。課題として、児童一人一人とのふれあいを大切に、保護者の皆様と連携した児童理解に努めていくこと、学習面では、基礎的・基本的な学力の定着がより一層図れるようにしていくとともに、一人一人の学習の理解度や課題を見取り、適切な支援・指導が行えるようにしていきたい。また、教育活動全体を通して道徳的心情や実践力を養い、互いに認め合い、支え合い、安心して学べる学級づくりを行っていく。今年度は、那賀町林業振興課、山のおもちゃ美術館と連携して各学年で木育の授業を行った。関係機関や地域の方との連携した教育活動の実践により、質の高い教育活動を行うことができた。今後も、さらなる連携を図り、教科の学習や総合的な学習と関連させ、豊かな自然・地域の文化・地域の方々のかかわりを通じた質の高い教育活動を展開していきたい。

以上のような分析内容並びに保護者の皆様からいただいたご意見を踏まえ、令和7年度の教育活動を展開していきたいと考える。